
妖世紀エヴァンゲリオン Re-Make

たすく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖世紀エヴァンゲリオン Re-Make

【Nコード】

N3941Z

【作者名】

たすく

【あらすじ】

「来い」の一言が書かれた手紙を持って現れたのは、蔵馬（南野秀一）だった…！ 新世紀エヴァンゲリオンと幽遊白書のキャスティングクロスオーバー作品。碇シンジの位置に蔵馬（南野秀一）。

自サイトより転載。2000年ごろ書いた『妖世紀エヴァンゲリオン - Ayakashi Genesis Evangelion -』のリメイク版です。内容的には変わってないかと思われますので気を付けてください。

第壹話 転生

魔界と霊界。

魔界とは、数々の妖怪が住む世界。

霊界とは、『あの世』と呼ばれる世界。

魔界は、何階層にも別れており、上層部の一部を霊界が管理している状態である。

その管理している階層において、霊界の法における犯罪を犯した妖怪を退治する『ハンター』と呼ばれる存在がいる。

その『ハンター』が今、魔界において一匹の妖狐を追い詰めていた。

「俺としたことがっ!!」

銀髪の妖狐がハンターから逃げていた。

ハンターの霊的攻撃のため、体のところどころに怪我を負っていた。

「このままではまずい。確実に殺される」

ハンターは、犯罪者を捕えて法に照らし合わせて裁くというより、その場で狩る（処刑）することが多い。

妖狐は魔界を脱出し、人界に向かう。

しかし、ハンターはまだ追ってきていた。

そして致命的な一撃を受けた。

「ぐあ… ここまでなのか…」

妖狐の意識がとぶ直前、目の前に穴が見えた。

「…！」

穴に吸い込まれ、妖狐の意識がとんだのだった。

.....

.....

.....

.....

.....

...

妖弧の意識が戻る。

「これは.....」

動けない体。

「俺は... そんな事が...」

目の前にいるのは人間の女性だった。

妖狐は人間として転生したのだった。

時に2000年…

伝説の極悪盗賊と呼ばれた妖狐蔵馬は人間として生を受けた…

第貳話 第三東京市

2015年……

あれから15年……

親戚の家に預けられていた蔵馬は、人間としての父である人物から手紙を受け取る。

『来い』

その一言と、謎の女性の写真。

(いったい今更、何のようだろう。関わりたくないんだけど…)

そう思いつつも行ってみることにした。何となくだった。

これが苛烈な戦いの始まりだったのである。

そして、蔵馬が、第三東京市につき、リニアを降りたときだった。

『本日12時30分、東海地方を中心とした、関東地方全域に特別非常事態宣言が発令されました。住民の方々は速やかに指定のシeltersに避難して下さい。繰り返します…』

「特別非常事態宣言？ それはなんだろう。今の状況では判断できない。まあ、手紙に書いてあるところに電話して、情報を集めよう」
動揺するところか、冷静になった蔵馬は、封筒に書かれた電話番号で、電話を試みる。

『特別非常事態宣言発令のため、現在通常回線は全て不通となっ

ております。繰り返し…』

「不通か」

とりあえず、状況を判断すべきその場を動かず、周りを見回す。人っ子一人いないが、変わった様子は見られない。

そして、上を見上げると、普通では飛行してないモノを発見した。戦闘機だ。

「ん…？」

よく見ると攻撃をしているようだ。かなり遠くに煙が上がっている。

（戦争でも始まったのか？）

煙が少しずつ晴れていく。そこには巨大なモノが見え始めた。人型したモノだった。

（妖怪…？ ではなさそうだが。）

そう思っただけで見ていると、一台の車が走ってくる。

その車が、蔵馬の前に止まり、一人の女性が出てきた。

「南野秀一君ねっ！！ 遅れてゴメンツ！！ 乗ってっ！！」

「葛城ミサトさんでいいですね？ あれはいったい何ですか？」

（あの写真の女性だな。）

「落ち着いているわねシンジ君。 あれはね、使徒よ」

「使徒？」

「そっ…って、NN地雷っ！ 伏せて秀一君っ！！」

ミサトは蔵馬を抱えて車の中で伏せる。同時に大爆発が起き、その爆風で吹っ飛ぶ車。

「大丈夫だった？」

「ええ。砂が口に入ったくらいです」

「そいつは結構。じゃ、行くわよ」

ミサトが横倒しになった車を元に戻そうとするが、女性一人では持ち上がるわけがない。蔵馬も手伝い起こした。

「ありがとう。意外にパワフルなのね。よろしく。南野秀一君」

「こちらこそ。葛城さん」

「ミサト、でいいわよん」

そのころ、ネルフ作戦本部……………

「ミサイル攻撃でもきかんのか！？ 全弾直撃のはずだぞ！！」

「クソがッ！！」

目の前のモニターには、いつさいの攻撃を受け付けられないモノがうつっている。使徒と呼ばれるモノ。

その使徒を何とかしようとしてる軍人たちの後ろにサン格拉斯の男と初老の男が立っている。

軍人たちが何処からの通信を受け取り、苦々しい顔しながら、その二人にいる後ろを向いた。

「南野君。これより本作戦の指揮権は君に移った。お手並みを見せてもらおう」

「了解です」

サングラスの男が言う。

「南野君。我々の所有兵器では目標に対し有効な手段が無いことを認めよう」

「だが、君なら勝てるのかね？」

口々に言う軍人たち。不快感は顔に浮かんでいる。

「そのためのネルフです」

南野は確信を持って言った。

「期待しているよ」
軍人たちはテーブルごと本部から退場した。
「国連軍もお手上げか。どうするつもりだ？」
南野の横に立っていた初老の男が口を開いた。
「初号機を起動させる」
「初号機をか？ パイロットがいないぞ」
「問題ない。すぐに秀一が来る」

（しかし、何故だ… 私が入手した死海文書の予言より、一年遅い… 何か不確定要素でも入ったのか…）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3941z/>

妖世紀エヴァンゲリオン Re-Make

2011年12月14日00時52分発行